

本業務は、鹿児島県内における災害発生を想定し、鹿児島県及び県内市町村が各自の災害廃棄物処理計画に沿って対応を行う演習を通じて、発災時に必要となる手順を確認し、処理計画の実効性を検証することを目的とし実施した。

本業務の実施にあたっては、当初、参加自治体が参集して行う対応型図上演習を想定していたが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止等重点措置の期間中であったため、九州地方環境事務所及び業務対象自治体である鹿児島県との協議により、リモートによる開催とした。

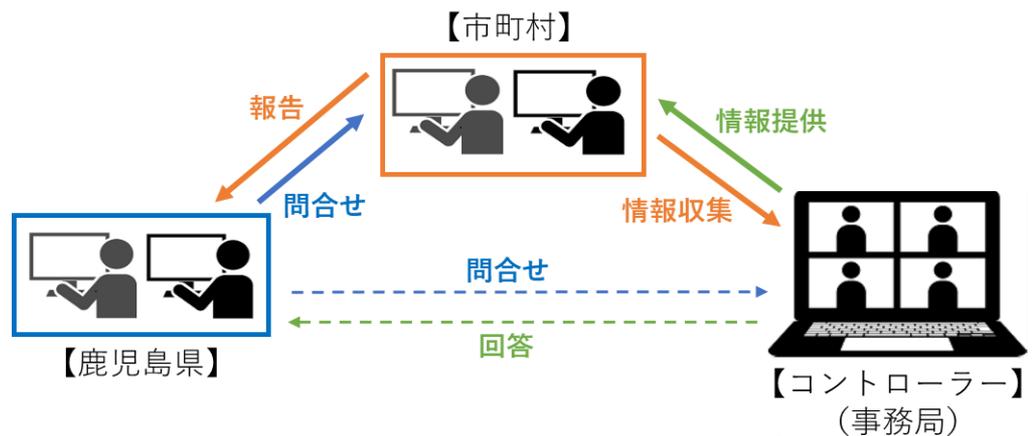
当演習において期待する効果

- (1) 災害発生時における廃棄物対応手順の確認を行う。
- (2) 県－市町村間の連携確認を行う。
→情報共有の必要な事項、支援に関する連携調整
- (3) 平時に取り組んでおくべき事項についての認識を深める
→災害廃棄物処理計画の見直しに向けた気付き

演習について、災害廃棄物対策の初動期における重要事項である次の4つのテーマを設定した。**① 情報収集****② 仮置場開設準備****③ 協定の発動****④ 住民広報**

演習の基本構成は、市町（災害廃棄物処理主体）、県（連絡・調整）、事務局（コントローラー）からなり、県→市町→コントローラー→市町→県をやり取りの基本的な経路とした。

当演習の基本構成



当演習の4つのテーマと内容

番号	テーマ	テーマの目的	内容
①	情報収集	発災時に収集、共有すべき情報について確認する	被害状況について →被害の概要、処理施設の被害状況
②	仮置場開設準備	仮置場開設時に必要となる準備について確認する	仮置場開設の準備状況について →主たる仮置場（代表1例）が対象
③	協定の発動	協定による支援が必要な事項、判断や手順について確認する	支援の必要な事項について →事務、収集運搬、仮置場管理等
④	住民広報	住民広報の方針、広報の内容や方法について確認する	住民広報の方針について →広報媒体、分別方針、仮置場等

演習の概要

実施日時：令和4年2月8日（火）10:00～16:30

場所：リモート開催（Webex）

参加者：27名

市町15名、県2名、環境省3名、有識者1名、事務局4名

関係団体（鹿児島県産業資源循環協会）2名 ※オブザーバー

時間		内容	担当	実施形態
9:00～		Web会議システム準備、通信テスト	事務局	
10:00～	5分	開会挨拶	九州地方環境事務所 資源循環課	Web会議
10:05～	25分	図上演習の内容と進め方の説明 ※配布資料、スケジュール確認	事務局	Web会議
10:30～	45分	図上演習① 情報収集	事務局	電子メールまたはFAX
11:15～	45分	図上演習② 仮置場開設準備	事務局	電子メールまたはFAX
12:00～	60分	昼休憩		
13:00～	60分	図上演習③ 協定の発動	事務局	電子メールまたはFAX
14:00～	60分	図上演習④ 住民広報	事務局	電子メールまたはFAX
15:00～	10分	休憩		
15:10～	75分	演習の振り返り ・振り返りシート記入：20分 ・参加者からの発表：30分 ・演習内容と意図の解説：15分 ・有識者講評：10分	事務局	Web会議
16:25～	5分	閉会挨拶	鹿児島県 廃棄物 リサイクル対策課	Web会議

発災時に必要な4つのテーマについて、「演習シナリオ」に沿って県が問合せを行い、市町村は災害廃棄物処理計画をもとに、必要な情報を収集して報告を行うとともに対応の手順を確認した。

演習の各テーマに関する問合せや情報共有に用いる様式を事前に作成し（様式1～様式5）問合せ及び回答は電子メールに添付またはFAXで行った。

様式名	様式の内容・意図
様式1	【市町村の被害の概要】 各自治体の被害情報の収集がテーマ。気象庁発表の観測情報や、災害対策本部や消防などが把握する被害状況の確認（死者や行方不明者、避難者数といった人的被害）。避難者数は避難所ごみやトイレ数の検討のために重要な数字。
様式2	【一般廃棄物処理施設等の被害状況】 プラント本体の被害だけではなくライフラインやアクセス道路が寸断されてないかも確認。焼却施設のピット残量の確認は、施設が動かなくても、集積したごみを何日間貯留できるかの把握のため。
様式3	【仮置場開設状況】 仮置場は場所が決まっていればよいわけではなく、様式中に着色した項目（開設日、利用時間・曜日、運営形態、運営要員、必要資機材、分別区分等）については早く決めないと、すぐに仮置場の開設や運営をすることはできない。
様式4	【支援要請項目】 ①指揮命令を含めた処理対応の方針決めへの助言②収集支援③仮置場支援④処理支援の4項目について要否を確認。環境省の人材バンクやD-Waste Net、全国都市清掃会議や産業資源循環協会、近隣他都市等へ支援を要請することになる。
様式5	【住民広報】 住民への広報に使用する媒体、災害ごみの分別区分、災害ごみの排出場所等の確認。広報のためには、分別区分や排出場所や持ち込み先などを含め、迷いやブレのないようにきちんと決めて準備しておくことが重要。

当演習は元々発災時の具体的な対応の確認を目的としたものではあったが、新型コロナウイルス感染症対応のため各自治体の通信インフラを使っての演習となったため、より実際に近い訓練のような演習となった。参加者も自分ごととして緊張感を持って受け止め、多くの具体的な課題に気付くことができた。

演習の振り返りでの主な意見

1 演習内容について (1) 本日の図上演習において不明点や疑問に思ったことなど

- ・もし本当の災害が生じた場合は、かなり情報が錯綜すると思われる
- ・外部用メールと内部用メール（LGメール）は端末が異なり、情報共有が大変だった
- ・実際に大規模な災害や津波が発生した場合、停電やネット回線の断線により、今回の図上演習のように県とスムーズにやり取りができるのか

1 演習内容について (2) 図上演習を踏まえ、災害廃棄物処理計画の見直しに関する気づきなど

- ・仮置場の運営管理について予想される必要な人員や資機材の配置について記述をする必要がある
- ・災害時は、地域防災計画に則り各課対応が出てくるため、他部署へ支援を要請することは難しいと感じた。被災時の人員配置等考えておきたい
- ・島しょ部では処理施設が限られているため、復旧の見込みがない場合の対応が想定されてなかった

2 今後の職務において、災害廃棄物対応力向上のためにどのような行動がとれると考えるか

- ・人員が入れ替わった年度当初で計画の確認とそれぞれの役割の確認を行う
- ・協定先や協定内容について、自己処理できない場合に、どこに何をどれくらい協力依頼できるか再確認
- ・年に数回行われる防災訓練の際に、災害廃棄物処理計画をもとにしたシミュレーションを行う

3 図上演習の企画内容についての感想や改善点等

- ・Webでの開催となったが、会場で集まって行うよりも、この形の方が現実的であり、よい訓練となった
- ・「(様式4) 支援要請の項目」は大変参考になった。職員の被災状況、市内事業者の被災の有無など設定条件で数パターン考えなければならないが、どのような支援を求めるか、平時に考えておくことで、いざという時に短い時間で判断ができるようになると感じた
- ・大規模災害のみではなく、頻発する台風など中小規模災害への対応研修ができればよい